AFS京葉 Vol.9

2020-2022

「*Closer to you*」

Looking back now I still can recall
the simple joys each day would bring
Soft April snow, a warm summer breeze
Your smile, your laugh, the songs we'd sing
Looking through your eyes I learned how to see
A new world full of possibilities
And I will always be thankful for all that
you've given me

原曲：「元気を出して」by 竹内まりや　英語歌詞：Seiji Motoyama

歌手の竹内まりやさん(AFS19期生 1972年～73年アメリカ留学)に
ご自身の代表曲『元気を出して』を提供していただき、「つながり」
や「絆」をテーマにオリジナルの英語詞をつけて誕生した楽曲

Connecting Lives, Sharing Cultures

人とつながる、世界と生きる

(公財)AFS日本協会 京葉支部

AFSとは

◆AFS　AFSは、異文化学習の機会を提供する世界的な教育団体です。
　活動の起源は第一次・第二次世界大戦中に傷病兵の救護輸送をしたボランティア組織American Field Service(アメリカ野戦奉仕団)です。
AFSの理念に共感し、活動を共にするボランティアとともに、多様な文化・価値観の人々と「共に生きることを学ぶ」活動を継続しています。

◆世界的な広がり AFSは、世界的な広がりを持つ組織です。
国際本部をニューヨークに置き、現在、加盟国は約60か国、交流国は100か国以上に及びます。AFSで留学できる国は多彩で、留学先でも他の国々からの留学生との交流が盛んです。英語圏に偏らず、より世界規模の国際交流を目指して活動しています。

交換留学制度が始まった１947年以降、プログラムの参加者数は累計で50万人を超え、４万人のボランティアが活動を支えています。2015年にはUNESCOのオフィシャルパートナー(consultative status）になりました。

◆（公財）AFS日本協会 公益財団法人AFS日本協会は、特定の政治・宗教に偏らない非営利組織です。
日本での AFS活動は、1954年に初めて８人の留学生をアメリカに派遣して以来、現在まで留学・国際交流の活動を進めてきました。現在は、日本全国７０支部１３００人のボランティアで留学生の受け入れ、派遣、各種交流活動を行っています。

◆ AFS全国ボランティア大会「尾身茂さん基調講演」2022.2.12

https://www.facebook.com/afsjapan/posts/2958953167458636/

基調講演
オンライン スクリーンショット

　1967年にAFSプログラムで日本からアメリカに留学した尾身茂さんは、WHOの要職を歴任し、現在は新型コロナウィルス感染対策分科会等3組織の会長を務められています。
　基調講演では、AFS体験が今のお仕事にどのように影響してきたか、AFTERコロナについて1時間30分に渡りお話をいただきました。AFS体験から学んだ最も大きな事は、個々の個性・意見・価値観が異なることの理解し、その上でPublicに尽くすことの大切さであり、今の自分の骨幹を作った。それを可能にしてくれたAFSの長年の地道な努力に感謝の気持ちでいっぱいだと話させていました。留学時代の事は今でもカラー写真のように鮮明に記憶しているという言葉がとても印象的でした。医学へ志を変えた後のWHOへの転機の際も、AFSがご縁の当時のユニセフの友人が影響を与えました。
続いて新型コロナウィルスで明確になった日本の良さ、課題をご説明いただいたあと、AFTERコロナは、これまでと違う多様性を認め、一人一人が自律し、人としての生き方をじっくり考える時期が来たことを教えてくださいました。大変心に響くご講演でした。

◆ 京葉支部

京葉支部は2001年に発足した支部です。(今年で受入開始20周年！)
千葉県全域と東京都の一部（江戸川区、葛飾区）が活動地域となっています。

支部長からのご挨拶

　2021年から京葉支部の支部長になりました山﨑貴子です。
1990年にAFSでカナダに留学して心も体も大きくなって帰国。その後はAFSとの接点はありませんでしたが、家庭を持ち「留学生のホストファミリーをしようかな」と思い、留学生を受け入れたのが2013年でした。それ以降ボランティアとして活動を始め、現在に至っています。自分が留学、ホストファミリー、ボランティアと経験をして感じたことは「ボランティアで成り立つAFSの活動ってスゴイ」「多感な高校生をサポートするのって大変」「自分の留学時のホストファミリーに改めて感謝」という事でした。今でも、驚き・感動・不安・憤りなど様々なことを感じながら活動をしています。京葉支部のボランティアメンバーは皆さん温和で、楽しいことをみなで 共有しよう！というマインドを持っていて、とてもいい雰囲気です。

AFS活動に関わる皆さんが、自分自身の体験をシェアできればいいなぁと思っています。
このニュースレターをお読みいただき、今のAFS京葉を感じていただければ幸いです！

AFS京葉支部 支部活動

2020年10月 秋年間生/架け橋3期生到着

11月 登校開始

12月歓迎会　キャンドル作り

2021年1月

2月アジア架け橋3期生送別会 (Zoom)

3月帰国

4月

5月 サロン京葉(Zoom)

6月

7月秋年間生送別会

8月帰国

9月

10月架け橋4期生到着

11月歓迎会 本土寺

12月日本の伝統を体験イベント

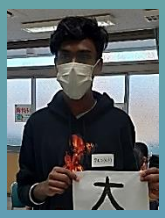
2022年1月

2月アジア架け橋4期生送別会

3月帰国

◆留学生 ようこそ日本へ!

秋年間生	架け橋3期生			架け橋4期生		
ラファ チリ	フスレン モンゴル	ウェイシー マレーシア	ファイザ インドネシア	ハナ ミャンマー	アンドレア フィリピン	タルン インド



◆おかえりなさい! 派遣生

67期は、新型コロナウィルスのため、一部実施、一部は68期に変更となりました。
本号は「派遣生のその後」を特集します!!

◆留学生◆アジア架け橋3期生 フスレン（モンゴル）東洋大学付属牛久高等学校

こんにちは、 モンゴルから来たフスレンともうします。私は１１月１１日からちょうど４ヶ月かん、日本に留学した。コロナでいろいろできなくなっちゃったけど、このみじかい間に学んだことがおおい。４ヶ月かん前の私と今の私はけっこうちがうとおもう。はじめの私の日本に来る理由は自分をためしてみる事だった。その目標を達成したかな、いまも考えている。このアジアかけはしプログラムで参加して、私はもっといい人、いい生徒になったかな？
他の国のいろいろなすごい生徒たちと会って何を学んだか？
私のこたえは他人を理解することと、他者の多様性を尊重することです。
これは本当に良いスキルと思う。
ありがとうございます。

◆留学生◆アジア架け橋3期生 ウェイシー（マレーシア）松戸国際高等学校

コロナは誰でも想像しなかった病でした。出発は段々延期されて、留学は儚い夢だと思いました。
でも幸いに、私は10月末で日本へ行きました。幼い頃から憧れた日本、私はついに日本に上陸しました。
四季の美しさは記憶に染めました。秋の神社で、3色葉っぱは風の吹きに舞い落ちました。冬の関東は強い風の共に長雨で、日沈む時虹も雲の間にちらっとしてました。春の河辺に満開の桜や菜の花の景色はカメラでも撮られないぐらいに美しいです。食が大好きで、毎日おいしいごはんをいただきました。スーパーに売ってるカレーパン、和菓子屋のあんみつ、日本のお母さんが毎朝作ってくれた弁当は全部おいしかったです。学校のともだちも、色々な楽しいことを教えてくれました。最近の流行語、高校生活を楽しむ方法、放課後の部活と、充実な日常でした。日本のみんなは、この人生で出逢ってよかった人たちです。この留学期間で、自分が幸せな人であるとよくわかりました。

◆留学生◆アジア架け橋3期生 ファイザ（インドネシア）松戸市立松戸高等学校

このようなパンデミックの真っ只中で、私たちが今ここにいるあなたを含む愛する人たちの愛に囲まれているとは信じています。私たちは家から遠く離れていますが、ここには家族や友人もいます。
ホストファミリーが3人いるのは私にとってユニークな体験です。一緒に学んでくれてありがとう。
あなたがいなければ、これは私の日常生活のほんの一部です。しかしあなたは辛抱強くヘルプしました。
ここに来ることができて素晴らしかったです。
あなたは一人ではないことを忘れないでください！人間であるということは、私にも不完全さがあるということです。だからこそ、私の終わりのない学習の旅は間違いなく起こります。
私はみんなを愛しています。
皆様の幸せをお祈りしております！

◆ 留学生◆2020年秋年間生 ラファ（チリ）専修大学松戸高等学校

みなさんこんにちは、私の名前はラファエルです
I was an exchange student in Japan for 8 months. Before I came to Japan I was so excited and anxious because I planned this since I was 14 years old, I was expecting a lot of experiences and moments and I feel so lucky that I've achieved this objective. Of course there was some difficulties and hard moments, also there was this coronavirus situation and studying a new language such as Japanese was more hard than I expected! But now that I'm back at my country I'm able to say that this was the most unforgettable and amazing experience in my life. In Japan I met a lot of nice and beautiful people. I lived incredible moments and I visited a lot of interesting places (mostly around Tokyo). I also fell in love with the Japanese culture and food! My favorite dishes were yakisoba and sushi! And my favorite restaurant were saizeriya and hamazushi. As a person coming from Latin America, I'm used to hugs or physical touch with friends and family, so it was kind of hard to get close with Japanese people and mostly in a different language, this made me learn a lot about myself and about finding new ways to communicate what I feel or what I want. This made me grow as a person too! I hope I can go back to Japan again very soon and look at the sakura's trees again in early spring. I'm so thankful with everyone but mostly with my two host families and AFS members for taking care of me in Japan. I will come back! And please visit my country if you want too!
ありがとうございました！

◆留学生◆アジア架け橋4期生 アンドレア（フィリピン）光英VERITAS高等学校

AFS京葉のウェルカムパーティーは大切な思い出の一つです。私は個人と出会いつながりを持つ機会が大好きです。日本の文化に触れ、浸ることができ、いつもながらとても新鮮でした。それだけでなく、歩き回って感じる日本の自然にも感謝しています。

2つのホストファミリーがとても協力的で、私を特別な存在として扱ってくれたことに、心から感謝しています。血のつながりはないけれど、新しい家族を見つけることができました。日本のいろいろな場所に一緒に出かけとても幸せでした。ホストスクールではたくさんの友達ができました。笑顔、笑いや思い出を共有したことは、私の大切な宝物です。日本の教育システムを体験できてよかったです。生徒がよく勉強すること、先生方がとても親切、美しい校舎、冬のかわいい制服に魅了されています。日本の気候は母国フィリピンと大きく異なり、帰国したら冷たい日本の風が恋しくなるでしょう。私の住む県は雪はめったに降らないので、空から雪が降ってくると、私の喜びは屋根の上にのぼるほどでした。

生まれて初めて雪を体験できました。半年間の留学は、これからの私の人生のハイライトになることでしょう。

◆アンドレアのホストファミリー

堀さん　2021年10月～2022年1月

コロナ禍2ヵ月半という短期間、フィリピン人留学生を受入れました。当初のぎこちない笑顔から徐々に満面の笑みを見せてくれるようになり、日本での滞在を通じた成長を一緒に喜び、家族の一員として楽しい時間を共有してくれました。素敵な出会いに感謝です。

市澤さん　2022年1月～

子供たちは英語ができなく、最初は「通じないから話さない」と会話も少なかったですが、すぐに仲良くなり、娘に至っては2人で仲良く出かけるようになりました。お互いが歩み寄っている様子が見れて嬉しく思っています。感染拡大の中、外出もなかなかできなく残念ですが、楽しい思い出を作りたいと思います。

◆留学生◆アジア架け橋4期生 タルン（インド）松戸国際高等学校

アジアかけ橋文化交流プログラム2021-2022は、私に日本の留学生になる機会を与えてくれました。私の学校の日々新しいことを学び、日本文化をより多く体験してきました。効果的なコミュニケーションは、会話を通じて私を大いに助けてくれた主要なツールの1つでした。学校の初日は全員にスピーチをしなければならず、とても緊張しました。しかし、私はそのスピーチを成功させるために、自分の快適ゾーンから学習ゾーンに出なければならないことを知っていました、そして私はそれをしました。私のスピーチはうまくいき、全員が私を賞賛しました。最初にクラスに入ったとき、誰もが私を見ているだけで怖くなっていました。しかしまたスピーチをしてみんな感動しました。スピーチの後、みんなが来て私に話しかけました。彼らはとても優しくて親切でした。彼らはあらゆる状況で私を助けてくれ、日本の経験をさらによくしてくれました。もう一つ好きだったのは日本語です。それ自体がとてもユニークです。生活の中で勉強するのはとても難しいと思いましたが、だんだん慣れてきました。最後になりましたが、私に最高の機会を与えてくれたAFSジャパンにとても感謝しています。

◆タルンのホストファミリー

植木さん　2021年10月～

日本の文化の１つである温泉を体験してほしいと、家族で熱海温泉へ。
初めての温泉はお父さん（夫のことです）と一緒、温泉に入るためのマナーを学びつつ…入れるのかな？と少し心配していましたが、とても気に入ったようです。その後、長野に出かけた時にはサウナで整えたり、温泉地の公衆浴場（地域の温泉）には1人で入ることもできました。声をかけないと出てこないほど。

我が家でも、当初はシャワーだけで済ませていたお風呂、今は入浴剤を入れてのんびり湯船につかっています。こんなにお風呂が気に入るとは！

食べ物もインドでは食べたことがなかったものがたくさんあったようですが、なんでも1度はチャレンジ！　海老も日本に来て初めて食べたそうですが、今は大好きです。

◆留学生◆アジア架け橋3期生４期生ハナ（ミャンマー）成田国際高等学校

日本に来て、色んな事を体験して数えきれないくらいの思い出を作り、いっぱい学んだと思います。一番最近のすごかったことについて話したいです。一番寒い1月に学校の皆と関西のほうの修学旅行に行ってきました。雪が降ってる日に行った京都の金閣寺と伏見稲荷大社はすごく素晴らしかったです。次の日のユニバでも素敵な思い出を親友たちと作りました。旅行の最後の日には大阪の道頓堀で皆で歩いた記憶は忘れられな いと思います。修学旅行前にもホームステイの修学旅行前にもホームステイの家族と年末年始に那須に行きました。いつも忙しくて余り話できないけど、皆で、自由に心を開いてれ喋れる機会だったので、心がほっとしました。子供たちだけで作ったかまくらも面白かった。色んな楽しいことした中で、日本人の皆と話して、何が違うのかを探すのが一番好きです!

◆ハナのホストファミリー

川村さん

Hanaが我が家に来て二度目の冬…去年は富士山の近く山中湖で、今年は雪景色の那須で新年を迎えました。

来日した当初は15歳にしてはしっかりしている優等生。学校でも笑顔を振りまき、あっという間に日本語も上手になりました。16歳になったHanaは、社会人と大学生の娘のなかで一番快活でおしゃべりな三女として毎日わちゃわちゃと過ごしています。

料理が大好きで、時々シェフとして家族に美味しい料理を作ってくれます。お風呂掃除もいつもありがとう。Hanaがいることで家族で出かける機会も増えて幸せに思います。春からは高校3年生。将来の進路について幅広く興味があるようで楽しみですね。
17歳の一年間が元気で健康でたくさんのことにチャレンジできますように…！
いつも応援しています。

◆派遣生のその後◆66期 犬塚漢采さん（インド）

高校生編

お久しぶりです！
66期インド派遣の犬塚と申します。前回は帰国後すぐにニュースレターを書かせて頂いたのですが、今回は帰国から約2年経つタイミングですので、留学が僕に与えた影響について振り返ってみたいなと思います。
「置かれた場所で咲きなさい」これはインド留学中に僕が非常に大切であると感じた言葉です。
これは「置かれた場所で耐え忍ぶ」という意味ではなく、「環境のせいにするのではなく、常に主体的に行動し続ける」という意味であると、僕は捉えています。
留学というと「どこの国に行くか」に注目されることが多いと思います。しかし大事なことはどこに行くかではなく、「そこで何をするか」です。留学に行っただけで満足するのではなく、常に主体的に自分はなにができるかと考える続けることが大切だと思います。
この考え方は留学中だけではなく帰国後にも大きな影響を与え、残りの高校生活においても様々な活動に取り組むきっかけとなりました。

これから留学に行く皆さん、置かれた環境を楽しみ、そしてぜひ主体的に行動し続けていってください！

◆派遣生のその後◆65期 三塩香織さん（コスタリカ）

大学生編

　今から４年前の2018年、私はコスタリカに１年間留学しました。
コスタリカという国は日本であまり馴染みがなく、詳細を知らない人も多いと思います。
簡単にいえば、自然が豊かで、陽気で比較的ルーズな国です。バスが１時間遅れたり、
街中の道路にイグアナが平然と歩いていたりしています。
　イグアナを筆頭に様々な動物や自然に囲まれ、陽気な人々と過ごしていくうちに、自分の性格が変化したと感じました。元々せっかち気味であったのが、心に余裕が生まれるようになりました。
これは自分の美点になったと考えています。内面の変化に加えて、コスタリカでの留学は進路にも影響しました。コスタリカは軍隊を廃止した世界で唯一の国です。この経緯や世界情勢での軍撤廃の立場などを現地で勉強したことで、政治に興味を持ち、今、私は大学で政治を学んでいます。

　これから出発する方々は、その国で様々な貴重な経験をするでしょう。
それが楽しいことだけではなく、辛いことかもしれません。しかし、その経験から多くのことを吸収でき、それが自分の財産になると私は考えます。私自身も留学中に後悔は沢山しましたが、得たものも沢山あります。コスタリカに留学したことは私にとって財産です。
安全に素敵な自分だけの高校留学を創り上げてください。

◆派遣生のその後◆57期 松岡萌子さん（アメリカ）

社会人編

　2010年にアメリカのテキサス州オースティンに派遣されました。
帰国後早いものでもう既に11年が経ってしまいました。留学中での1年間はホストファミリーにもホストスクールにも恵まれ、大変刺激的で幸せな毎日を送ることができ、私の人生の基盤になったと感じています。
　テキサス州派遣と分かった時には、カウボーイくらいしか想像ができなかったので、一体どんなところで1年過ごすのだろうかと楽しみな気持ちと不安が混ざりましたが、日本では想像もできない広大な景色や野生の動物との遭遇、人の優しさ、カルチャー、すべてひっくるめて本当にテキサスが大好きになりました。
　留学帰国後は上智大学国際教養学部に進学し、現在は外資系企業にて採用業務に携わっています。
日々英語を使わない日はなく、留学で得た英語力や経験を最大限に生かせていると感じています。
私の留学時代はスマホもなく、日本にいる家族や友達と連絡をとることができなかったことが、留学生活にフォーカスできた大きな理由だと思っています。

今はスマホやSNSが当たり前の時代ですので難しいと思いますが、日本語から少しでも離れる時間を増やして、長いようで本当にあっという間の1年間の現地での生活を、思う存分楽しんでみてください。
留学でのご経験があなたにとって、かけがえのないものになりますように！

◆支部を支えてくださっている寄附金納付者の皆様、ホストファミリー、ホストスクール、ボランティアの皆様へ

昨年も、留学生・派遣生の笑顔を支えていただき、ありがとうございました。
AFSでの留学が、彼ら彼女らの経験の１つとして 輝く未来、世界レベルの絆、
そして、真の世界平和につながることを、心より願っています。
2022年も引き続き、ご支援・ご協力をいただきたく、よろしくお願いいたします。

ご寄附のお願い

京葉支部の活動は、皆様からのご寄附で支えられています。
これまでいただきましたご寄附は、留学生や派遣生の交流行事やニュースレターの発行費用等に活用させていただきました。
引き続きのご支援を賜りますよう、お願いいたします。

・AFS日本協会のホームページ「寄附」メニューから、
クレジットカードで手続きが可能です。
・郵便口座への振替は以下です。
口座番号 00170-5-610779 加入者名：AFS寄附金口座

いずれの場合も、通信欄には「京葉支部宛寄附」とご記載ください。
AFS日本協会への寄附は、確定申告の際に各種税金の優遇措置の対象となります。

お知らせ

◆Instagram、Facebook配信スタート！ 支部活動の様子をご覧ください。

フォロー・いいねでの応援もよろしくお願いいたします。
Instagram:(公財)AFS日本協会京葉支部 → afs_keiyo
Facebook:(公財)AFS日本協会京葉支部 → AFS_keiyo京葉

◆ボランティアのお願い

ボランティア活動をお考えの方、これまで京葉支部を支えてくださった方で、
再度一緒に活動を行ってくださる方を募集しています。
オンライン家庭訪問などのオンラインのみの活動、広報(ニュースレターの編集・発送)などの部分的、期間限定の活動への参加も可能です。
可能な方は、以下までご連絡ください。ご検討よろしくお願いいたします。

お問合せ先
(公財)AFS日本協会 京葉支部

E-mail：info-keiyo@afs.or.jp
HP URL:https://www.afs.or.jp/contact-us/keiyo-chapter/